

Q & A



Q1 どのくらいの人が悩んでいるの？

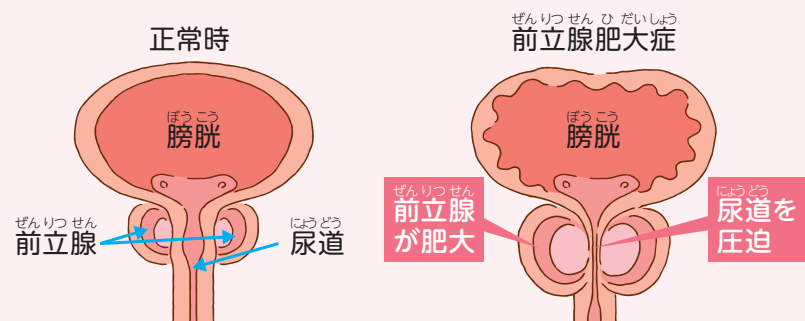
A 国内の調査では、40歳以上の日本人の12.4%が過活動膀胱とされました。
この調査結果から、国内の患者数は1,000万人を超えると推定されています。



本間之夫ほか：日本排尿機能学会誌：14(2)：266, 2003

Q2 過活動膀胱と前立腺肥大症はどう違うのですか？

A 前立腺肥大症は中高年男性に多くみられる病気です。前立腺肥大症が原因となって過活動膀胱が起きることがあります。
前立腺が大きくなることにより尿道が圧迫され、尿が出にくくなります。この状態が続くと、排尿の度に尿を無理に出そうとして膀胱に繰り返し大きな負担がかかります。このため、膀胱の筋肉に異常をきたし、過活動膀胱となります。
前立腺肥大症による過活動膀胱の場合、前立腺肥大症の治療が優先して行われます。そのため、過活動膀胱と異なるお薬を使用する場合もあります。

急にトイレに行きたくなる
トイレの回数が多い

その症状、
もしかして？

か かつどうぼうこう
過活動膀胱

しんけいいんせいぼうこう
神経因性膀胱のお話



編集協力 福井大学医学部附属病院 泌尿器科 教授 横山 修 先生

グラクソ・スミスクライン株式会社

尿のお悩み ～こんな症状がありませんか？～



「急にトイレに行きたくなる」「トイレの回数が多い」など、日常生活で尿の悩みはありませんか？



このようなことが続くと、趣味や仕事など、日常生活にさまざまな影響が出てくる可能性があります。



その症状、尿に関する病気のせいかもしれません



こちらの質問票でチェックしてみましょう。
それぞれの質問について、この1週間の状態に最も近いものをひとつだけ選んで、点数の数字を○で囲んでみましょう。

か かつどう ぼうこう 過活動膀胱症状質問票 (OABSS)

質 問	症 状	点 数	頻 度
1	朝起きた時から寝る時までに、何回くらい尿をしましたか	0	7回以下
		1	8～14回
		2	15回以上
2	夜寝てから朝起きるまでに、何回くらい尿をするために起きましたか	0	0回
		1	1回
		2	2回
		3	3回以上
3	急に尿がしたくなり、がまんが難しいことがありましたか	0	なし
		1	週に1回より少ない
		2	週に1回以上
		3	1日1回くらい
		4	1日2～4回
		5	1日5回以上
4	急に尿がしたくなり、がまんできずに尿をもらすことがありましたか	0	なし
		1	週に1回より少ない
		2	週に1回以上
		3	1日1回くらい
		4	1日2～4回
		5	1日5回以上
合計点数		点	

日本排尿機能学会過活動膀胱診療ガイドライン作成委員会編。
過活動膀胱診療ガイドライン[第2版]、リッチヒルメディカル、東京、2015

気になる症状がある場合は、医師に相談してみましょう。
質問票の結果をもとにご自身で判断することは避けてください。

か かつどうぼうこう しんけいいんせいぼうこう 過活動膀胱・神経因性膀胱とは？

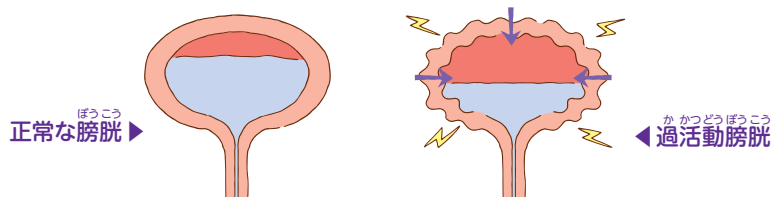
か かつどうぼうこう 過活動膀胱とは？

過活動膀胱とは、急に尿意をもよおして、何回もトイレに行ったり、トイレに間に合わず尿をもらしてしまったりする病気のことをいいます。

また、行動療法や薬物治療を少なくとも12週間継続しても改善がみられない、または副作用などで治療の継続が困難である場合を、難治性過活動膀胱と定義しています。

か かつどうぼうこう 過活動膀胱が発症するしくみは？

過活動膀胱になると、尿が十分にたまらないうちに膀胱の筋肉が勝手に収縮して、尿を出そうとします。過活動膀胱が発症するしくみは十分にはわかっていませんが、加齢、肥満、メタボリック症候群、高血圧、前立腺肥大症など、さまざまな病気に関係していると考えられています。



か かつどうぼうこう 過活動膀胱でよくみられる症状は？

過活動膀胱の症状は、尿意切迫感、切迫性尿失禁、昼間頻尿、夜間頻尿の4つが一般的です。

尿意切迫感

突然起こる、
がまんできない
ような強い尿意

切迫性尿失禁

がまんができずに
尿がもれてしまう

昼間頻尿

日中に何回も
トイレに行く

夜間頻尿

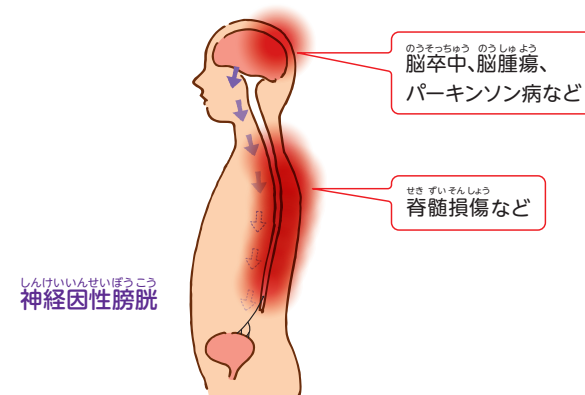
尿意のために
少なくとも1回は
睡眠が中断される

しんけいいんせいぼうこう 神経因性膀胱とは？

神経因性膀胱とは、神経系の病気によって尿のトラブルを生じる病気のことです。神経因性膀胱になると、本人の意思とは関係なく、尿がもれたり、逆に出にくくなったりします。

しんけいいんせいぼうこう 神経因性膀胱が発症するしくみは？

脳や脊髄の病気により、神経が障害されると、脳からの信号が膀胱へうまく伝わらなくなることがあります。その結果、尿を出したり、がまんしたりする膀胱のはたらきがコントロールできなくなり、神経因性膀胱を発症します。



しんけいいんせいぼうこう 原因となる疾患は？

神経因性膀胱の原因として、以下の疾患が考えられます。

脳障害

脳卒中
パーキンソン病 など

脊髄障害

脊髄損傷
多発性硬化症
二分脊椎 など

どんな治療があるの？

過活動膀胱、神経因性膀胱の治療には、以下の方法を単独あるいは組み合わせて行います。男性で前立腺肥大症を合併している場合は、前立腺肥大症の治療が優先的に行われます。

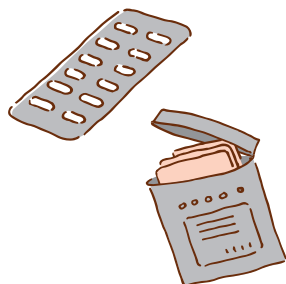
行動療法

生活習慣の改善や、排尿に関する筋肉を鍛える運動などを行います。排尿に関する筋肉を鍛える運動には、「膀胱訓練」、「骨盤底筋体操」などがあります。



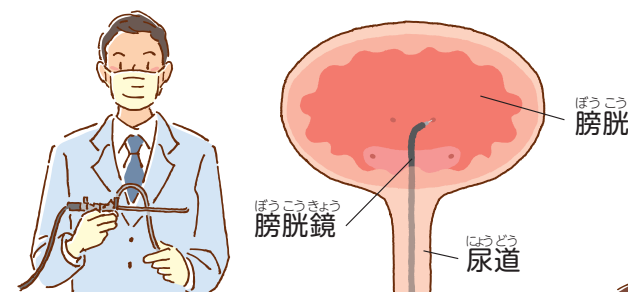
飲み薬・貼り薬による治療

主に膀胱の異常な収縮を抑える抗コリン薬と、膀胱の筋肉をゆるめるβ3（ベータスリー）作動薬という2種類のお薬が使用されます。症状によって、両方を組み合わせて使用することもあります。抗コリン薬には、貼り薬もあります。



ボツリヌス療法

膀胱の筋肉をゆるめる注射薬を使用します。膀胱鏡という内視鏡を用い、膀胱の筋肉に直接お薬を注射して、膀胱の異常な収縮を抑えます。治療は外来でも可能です。行動療法、飲み薬や貼り薬で効果が不十分な患者さんに対し、検討される治療法です。



電気刺激療法、磁気刺激療法

電気や磁気により、排尿をつかさどる神経に対して刺激を送り、膀胱や尿道の機能を調整する治療法です。



外科的治療

手術によって膀胱の容量を大きくし、尿をためられるようにする治療法です。

